

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 03 月 31 日作成)

委員会名	東洋建築小委員会	主 査 名：片桐 正夫
所属本委員会 (所属運営委員会)	歴史意匠委員会	委員長名：陣内 秀信
設 置 期 間	2001年 4月 ～ 2005年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	アジア各地の建築史研究並びに歴史遺構調査にかかわっている研究者の交流と情報交換、研究成果の公開と共有などを通じて、この分野の発展と向上に資すること。	
委員構成 (委員名 (所属))	片桐正夫 (日本大学)、岡田保良 (国士舘大学)、西本真一 (早稲田大学)、浅川滋男 (鳥取環境大学)、上野邦一 (奈良女子大)、佐藤浩司 (国立民俗博物館)、田中淡 (京都大学) 布野修司 (京都大学)、野々垣篤 (名古屋大学)、稲葉和也 (東海大学)、重枝豊 (日本大学)、中西章 (東工大工業高校)、山田幸一 (都立大学)、黒津高行 (日本工大)	
設置 WG (WG 名：目的)	『東洋建築史図集』改訂に関する WG (主査:片桐正夫) (東洋建築史図集改訂するため)	
2004 年度予算	230,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第1回小委員会 (2004年12月7日、7人) 第2回小委員会と拡大会議 (2005年1月21日、12人) 第3回小委員会と拡大円卓会議 (2005年3月25日、20人)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>拡大円卓会議においては、『土の建築について』と題して、「石造建築技術への視座—アンコール石造遺跡建築技術研究の現在—」(西平真一—早稲田大学助教授)、『『土の建築』遺産をめぐって』(岡田保良—国士舘大学教授)、「文化遺産を軸とした災害からの復興計画」(深見奈緒子—東京大学東洋文化研究所研究員)、「歴史的町保存と共存する新たな観光・交流の創造に向けた四国宣言—「国際町並みサミット in 愛媛」の論議の集約にかえて—」(前野堯—日本イコモス国内委員会委員長)の内容で発表。広く情報を公開し、関係者、会員、相互の情報交換をはかり、また、最近のアジア各地での状況についての理解をはかった。</p> <p>『東洋建築史図集』改訂 WG においては、改訂に向けて新情報の組み入れや、読書に対するビジュアルな対応などについて議論をおこなっている。</p>
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 以上の事業はこれまで東洋建築史小委員会における継続事業であり、広く会員に情報提供し交流の場をもたらすことができたと考えている。
その他評価すべき事項	